（様式2）

令和　4　年度　北九州市立　松ヶ江中　スクールプラン

令和　4　年度　学校教育目標	校訓「誠実・勤勉・礼儀」に則り、思いやりの心をもち、新たな価値創造に挑戦する中で、母校への誇りをはぐくむ生徒の育成

本年度の重点				年度末評価	
	重点目標 及び 指標		重点的取組	評価	○成果 ◆次年度に向けた方向性・改善点
子どもの「学び」に関すること	重点目標	**学びの主体者としての子どもの育成**	○学習の主体者となりえるように、教育委員会が示す「学びの質を高める授業づくり5つのポイント」を意識した授業づくりを行う。 ①学び合いの「質を高める」基盤づくり ②めあての設定は「子どもと一緒に」 ③「問い」と「気づき」を促す発問 ④「考えを深める」話し合う活動と書く活動 ⑤まとめと振り返りは「子ども自らの言葉」で ○ICTタブレット等の機器の活用に関する研修を充実させるとともに、活用頻度を高め、生徒並びに教員のICT活用の資質向上を図る。	C	○業務改善会議等、情報共有の活性化を図る中で、教員間の指導の一貫性について共通理解を図る機会が増えた。そのため、「学びの質を高める授業づくり5つのポイント」の「①学び合いの「質を高める」基盤づくり」に関して、また、日々の教育活動で行っている「あいさつ」、「掃除」等の生活指導で、改善が見られる。 ○ICTの活用技術を教職員で交流する機会が増えたため、昨年度に比べ、ICTの活用の頻度、幅、質とも向上が見られた。 ◆より望ましい進路保障につなげるために、高校入試を踏まえた学力向上を目指し、教育委員会が示す「学びの質を高める授業づくり5つのポイント」をさらに意識して授業改善に努める必要がある。
	指標	<学校生活アンケート> ◆「『どうすればできるだろう』『なぜだろう』などの問いをもち、『おもしろそう』『やってみたい』と主体的に学習することができた」と、肯定的な回答をした生徒の割合（授業改善）[80%以上]			
子どもの「心の育ち」に関すること	重点目標	**前向きに挑戦しようとする子どもの育成**	○生徒同士の人間関係を深めると同時に自己存在感、自己有用感を育む特別活動と道徳教育の充実を図る。 ○生徒が「誠実・勤勉・礼儀」の校訓に向け挑戦できる場(自分自身の長所を発揮したり活躍したと感じたりできる場・価値あることやよりよいことに貢献できる場・仲間と時間・空間を共有できる場等）を効果的・効率的に設定する。 ○日々の連絡、職員会議、生徒指導会議、特別支援教育推進会議等で、学年の枠を超えた情報共有を促進し、充実した行事の実施や生徒理解につなげる。 ○ユニバーサルデザインの視点に立った学習環境づくりに努める。 ○進路指導の充実に努める。	A	○3年ぶりに、関西方面の修学旅行（3年）、農泊（2年）、体育大会、文化学習発表会、合唱コンクールを行うことができた。生徒の成長の様子を見る限り、充実した学校生活を実感できた機会になり、様々な経験の場になった。これらの経験は、生徒同士の交友の深まりや生徒個々の心の成長にもつながっていると考える。 ◆生徒の成長を目指しながらも、教職員の業務改善、コロナ禍等、様々な視点で学校行事の精選を行って行く必要がある。
	指標	<学校生活アンケート> ◆「嫌だと感じるようなことや、難しいと感じるようなことがあっても、あきらめることなく、『よし！やってみよう』と前向きに挑戦することができた」と、肯定的な回答をした生徒の割合（自尊感情を高める取組）[90%以上]			
子どもの「体力」に関すること	重点目標	**体を動かすことに喜びを感じる子どもの育成**	○毎時間の授業で、めあてや課題を明確に提示することにより、全生徒が主体的に運動にかかわりながら、効果的に運動技能を身につけ、「できる」喜びを味わえるようにする。 ○授業のめあてと個々（グループ）の課題を明確にし、お互いに学び合う交流活動の徹底。（新型コロナ禍の対応を意識した上で） ○体を動かす楽しさや喜びが実感できるようにするとともに、生徒一人一人に達成感が得られる授業展開の工夫を行う。	B	○3年ぶりの水泳学習、体育大会に向けての練習ができ、ここ数年、コロナ禍のため取り組めなかった活動を体育科学習で行うことができた。部活動に所属している生徒も多く、部活動指導のガイドラインに沿って、充実した部活動が展開している。感染予防、熱中症予防等、安全第一で授業を行ったため、十分な成果は得られなかったかもしれないが、体力向上につながっている。 ◆本年度、残暑が続く中で体育大会の練習となった。行事の時季変更を踏まえ、生徒の心身の安全・安心を考慮し、保健体育科のカリキュラムを工夫する必要がある。
	指標	<学校生活アンケート> ◇「体育科の授業や部活動、学校生活外において、体を動かすことに喜びを感じている」と、肯定的な回答をした生徒の割合［90%以上］			
長欠・不登校対策に関すること	重点目標	**長欠・不登校生徒への適切な支援**	○「生活アンケート」と「教育相談」を実施し、生徒の心の状態を把握するとともにそれらの情報を指導に生かす。 ○生徒指導・校内いじめ問題対策委員会、並びに、生徒支援委員会をはじめとする様々な会議等を通じて、情報共有を図り、いじめや長欠・不登校等の問題事象の未然防止・初期対応・事後処理・再発防止に努める。 ○教育委員会等が実施している不登校対応の様々な施策を活用し、不登校生徒の減少を目指す。	B	○個々の生徒の課題に応じて、教職員で協力しながら丁寧な対応に務めている。学校だけでは解決できな課題については、教育委員会をはじめとする関係機関と連携をとり、多面的に課題解決に取り組むことができている。 ◆上記の成果（○）を挙げているものの、課題が複雑化している昨今の現状もあり、100%の解決には至っていない。さらなる改善に務めるためにも、問題が起きてから動く「対処的な指導」ではなく、問題が起こる前に未然防止する「予防的な指導」の充実を図っていく必要がある。
	指標	<学校生活アンケート> ◆「学校に行くのが楽しい」についての肯定的な回答をした生徒の割合［85%以上］			
業務改善に関すること	重点目標	**働きやすい職場づくり**	○「木（部分）」ではなく「森（全体像）」を意識した情報共有の徹底を図る。 ○職員が一人で仕事や悩みを抱え込まない、また、一人に抱え込ませない石垣型組織の理念で、セクトの枠にこだわらないフレキシブルな組織運営を行う。 ○会議等、必要に応じてPC等を有効に活用し、ペーパーレス化等、無理・無駄を省く職員伝達システムを構築する。 ○適宜、業務改善に関わる会議を行い、行事や会議の精選に係るPDCAサイクルを充実させる。	C	○ペーパレス化が進んだ。そのため、提案準備等の時間短縮が進んだ。 ○風通しのよい職員室を目指した結果、教員の交流が進み、情報共有のきっかけになっている。特に、2学期から始めた業務改善会議によって、教員の指導の一貫性が持ちやすくなった。 ◆時間外の月在校時間が80時間、100時間を超えている教員がいる月があり、労働基準法厳守の観点から業務改善をさらに進めていく必要がある。
	指標	◆一か月の時間外勤務が平均45時間以下（年間360時間以下）の職員の割合［100%］ ◆年間の年次休暇取得5日以上の厳守［100%］ ◆無理・無駄な会議を省く業務改善（職員の前年比以下の平均在校時間）			

「学校運営協議会委員」等からの意見を記入	○アンケート結果（別資料）のグラフはおおむねよい評価がでていてよいと思う。○「学校に行くのが楽しい」と回答した生徒が85%いることは、先生方の指導のたまものであると思う。○子どもたちの自己肯定感が下がってきているのが気になる。○学力低下が気になる。○高校入試を踏まえ進路指導の幅が広がるよう、授業づくり5つのポイントを深めていただきたい。○目標が定まっていると、そこに向かい頑張ることができると思うので、キャリア教育の充実を図ってほしい。○あいさつ指導等が充実していると感じる。○教員ももっとあいさつ等を頑張り、子どもたちに範を示してほしい。○行事ごとの生徒の成長が楽しみ。今後も行事、体験活動の充実を図ってほしい。○生徒、保護者、教職員の評価の差（ズレ）の改善に努めてほしい。　○学校運営協議会の開催の仕方を工夫してほしい。（学期に1回など）　○先生方が忙しすぎることに胸が痛い。全市で考えていく必要があると考える。○部活動の外部委託等を進め、教員の労働時間問題の解決につなげてほしい。